

第19回「斐伊川・神戸川流域環境マップづくり」成果発表会

日時：令和7年12月6日(土)14:30～16:00 会場：出雲科学館 理科学習棟3階
主催：NPO法人 しまね体験活動支援センター
後援：出雲市教育委員会、雲南市教育委員会、奥出雲町教育委員会、飯南町教育委員会、
国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所
助成：公益財団法人 河川財団、一般社団法人 中国建設弘済会
総評：出雲市教育委員会教育政策課 学校管理2係主幹 梶谷 悟氏
来賓：国土交通省出雲河川事務所 副所長 真庭利幸氏、
一般社団法人中国建設弘済会 島根副支部長 安立 宏氏
出雲市環境政策課 課長 川上 寿氏 他

内容：斐伊川・神戸川流域の2小学校の児童が2025年に実施した河川環境調査等の取り組みを
プレゼンテーションなどで発表しました。
出雲市立須佐小学校2名、出雲市立多伎小学校5名に(発表順)に発表していただきました。その後、他校の発表を聞いた感想など会場での意見交換を行い成果の検証を行うとともに活動の成果を共有しました。最後に発表校には表彰状と記念品贈呈も行いました。

須佐小学校の発表内容

今年遷宮が行われた須佐神社の近くにある全校生徒86名の須佐小学校で、モリアオガエルの観察やアユの稚魚の放流などにも取り組んだ。また、4年生は子ども歌舞伎にも取り組み大勢の皆さんにも応援していただいた。学校の前を流れる全長5Kmの須佐川と今年4月から統合した旧窪田小学校前の神戸川の2か所で水質調査をした。

6月27日、雨で水量が増していた須佐川だったが川に入って調査ができた。天気は晴れ、気温28度、水温21度、透明度50～55cm。パックテストでの調査ではCOD7～7.5、pH2～20の結果だった。水生生物ではきれいな水にすむカワゲラ類が7匹、ナガレトビケラ類が3匹いた。ややきれいな水にすむ生き物ではカワニナ類が4匹、ヒラタドロムシ3匹などだった。水質判定では水質階級IIの「ややきれいな水」から水質階級Iの「きれいな水」であった。



【出雲市立須佐小学校の発表】

7月1日、神戸川の調査では、天気は晴れ、気温29度、水温23度、透明度100cm。パックテストでの調査ではCOD2～8の結果だった。水生生物ではきれいな水にすむヒラタカゲロウ類が24匹、カワゲラ類が20匹などだった。ややきれいな水にすむ生き物ではカワニナ類が5匹、ヒラタドロムシ3匹などだった。水質判定では水質階級Iの「きれいな水」であった。

佐田町の川はきれいな川～ややきれいな川で生き物がたくさん住んでいることが分かった。ただ川の周りにゴミが落ちていたり、外来生物も増えているという問題があることも分かった。これから私たちは

「川にゴミを捨てない。ゴミが落ちていたら拾う。川に生き物や植物を放たない。」ようにしたいと思った。また、「自分たちが川の水をどのように使っているか知りたい。」と思ったので浄水場を訪ねたり、下水道の出前講座を開いてもらったりした。「今の川のことを知ってほしい。」との想いで絵手紙を作成して、環境保全について呼びかけた。学級役員さんがせっかく川の学習をしているのならと親子活動で川でのカヌー体験などを計画していただき、親子で川のきれいさを体感し川を楽しむことができた。

これからも身近な自然や生き物を大切にして、このきれいな川を守っていきたい。

多伎小学校の発表内容

多伎町はイチジク、道の駅キララ多伎、海岸などで有名だ。児童数 123 名の学校からは日本海が一望できる。5 月にはそのキララビーチの海岸清掃にも参加した時の感想では、「子どもから大人までたくさん的人が楽しく遊ぶところなのにこんなに汚いなんて！他の場所も汚いのかな？きれいであってほしいし、きれいにしたい」と思った。

調査は 7 月 2 日に大田市に近い町西部を流れる宮本川の上流、田儀櫻井家たら製鉄跡遺跡で行った。

天気は晴れ、気温 28 度、水温 19 度、透明度 100cm。パックテストでの調査では COD 6.5、COD0.8 の結果だった。水生生物ではきれいな水にすむヒラタカゲロウ類が 20 匹、カワゲラ類が 15 匹、ヨコエビ類が 8 匹、サワガニ 2 匹などだった。きれいな水とややきれいな水の両方にすむ生き物ではタニガワカゲロウ類が 4 匹、チラカゲロウ 3 匹だった。

水質判定では水質階級 I の「きれいな水」であった。

川の調査や海岸清掃を通して感じたことは「今の私たちが未来の環境を変える」という大事な役割を持っていることを感じたので、これからも環境問題に取り組んで行きたいと思った。



【出雲市立多伎小学校の発表】

意見交換会

子ども達を含め、ほぼ全員の皆様に感想や意見、生き物の情報提供をいただきました。



【会場での意見交換会】

出雲市教育委員会 教育政策課 学校管理第2係主幹 梶谷悟氏 総評

皆さんの発表を楽しみながら拝見し、川、環境のことをよく考えて、工夫しながら調べたり発表したりしている姿に、とても心を打たれました。

須佐小学校4年生、多伎小学校4年生ともに、身近にある川に入って水質や生き物のことを調べたり、自分たちにできることをみんなで話し合ったりと、一つ一つの取り組みに温かい気持ちがこもっているのが感じられました。

「環境をよりよくしたい」という思いが、今日の皆さんの言葉や表情からしっかりと伝わってきました。また、お互いの発表を見聞きしたことが刺激になり、活発な感想交流もできました。



環境を守るためにできることは、小さなこと、例えば、学校や通学路などで落ちているゴミを見つけたら拾う、水道を出しっぱなしにしないなどを続けていくことが大切です。今日の発表で見つけた気づきを、これから的生活の中でも生かし、周りの人たちへもぜひ広げていってください。皆さんの行動がきっと佐田町、多伎町の未来を明るくしてくれます。

最後になりますが、この発表会の開催にあたりご尽力されたしまね体験活動支援センターの皆様をはじめ、須佐小学校、多伎小学校の先生方、保護者、各関係機関・関係者の皆様に敬意を表し、総評といたします。

この他にも来賓としてお越しいただいた出雲河川事務所副所長 真庭利幸氏、一般社団法人中国建設弘済会島根副支部長 安立宏氏、出雲市環境政策課課長 川上寿氏、出雲科学館館長 曽田浩司氏からも感想や励ましの言葉を頂戴しました。誠にありがとうございました。



【感謝状・記念品贈呈】



【発表者・関係者記念撮影】

NPO 法人しまね体験活動支援センター 青木充之理事長あいさつ

今まで 19 年間成果発表会と見てきたが、両校の発表は今まででも特に優れた発表だったと思う。ご指導いただいた先生方、保護者、関係者の皆様方に感謝申し上げる。小学生の皆さんの調査活動を通じて川に直接入って調査した体験は得難いものなので大切にしてほしい。今後も私たちしまね体験活動支援センターは体験活動を支援して行くので、今回の体験を大人になってから活かされること願っている。来年は NPO 法人設立 20 周年を記念して 8 月に出雲市・出雲市教育委員会との協働事業として「夏の川遊び体験会」を計画しているので、ぜひご参加ください。ありがとうございました。